

健康 ぷらざ

インフルエンザの予防をしましょう —^{てん び}点鼻という選択肢もあります—

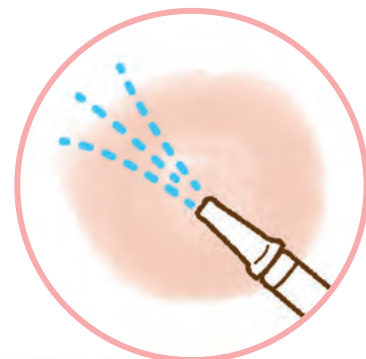
かすえキッズクリニック(東京都) 院長 川上 一恵

企画：
日本医師会

No. 595

インフルエンザはワクチンで予防

冬になると毎年インフルエンザが流行します。インフルエンザは急に高熱が出る病気で、乳幼児では時として急激に悪化し、脳炎・脳症を起こすこともあります。インフルエンザにはワクチンがあり、生後6カ月から接種することができます。



インフルエンザワクチンの新しい選択肢

従来のインフルエンザワクチンは注射でしたが、新たに点鼻という選択肢が増えました。点鼻のインフルエンザワクチンは、2歳以上19歳未満の人を対象としています。弱毒化されたインフルエンザウイルスを鼻の粘膜に直接届けることで、体の免疫反応を引き起こし、インフルエンザの予防効果が期待できます。国内の臨床試験では、点鼻ワクチンを接種



したグループでインフルエンザの発症率が約29%減少したことが確認されました。注射が苦手な子どもにとって、点鼻である点はメリットといえます。

点鼻のインフルエンザワクチンの副反応

一方で、副反応には注意が必要です。よく見られる副反応としては、鼻づまりや鼻水(約59%)、咳、喉の痛み、頭痛、発熱、倦怠感などがあります。重いものでは、まれにショックやアナフィラキシー反応(^{じんましん}蕁麻疹、呼吸困難など)が報告されています。また、接種後1~2週間はワクチンウイルスが鼻の中に残り、くしゃみなどとともに周囲にウイルスを飛散させる可能性があるため、免疫力が極めて低い人(例：重度の免疫不全の人)との接触は避ける必要があります。

ワクチンは注射、点鼻いずれにも優れた点、副反応等の注意点があります。正しい情報を基に、かかりつけ医と相談の上で接種を検討してください。

